

平成26年産米の作柄について

1. 平成26年産水稻の作況 (9月15日現在 農水省公表)

	収量(kg/10a)	作況指数
滋賀	503	97
全国	537	101
近畿	497	98

コシヒカリ収量調査結果(農業技術振興センター)

	総初数 (初/m ²)	登熟歩合 (%)	収量 (kg/10a)	くず米率 (%)	整粒 (%)	白未熟粒 (%)
本年	39,138	61.2	525	13.8	51.0	25.3
平年比	109	79	89	195	79	220
平年	35,920	77.3	591	6.8	64.6	11.5

注) 平年は、平成25年までの10年間の平均値

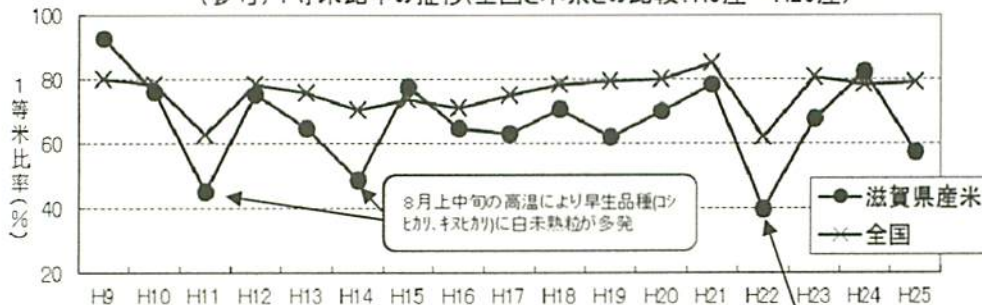
2. 平成26年産水稻うるち玄米の1等比率の状況 (8月31日現在) (単位:%)

	全国 全品種平均	滋賀県 全品種平均	コシヒカリ	みずかがみ
	本年の1等比率	76.6	77.0	54.1
昨年同期1等比率	74.0	81.6	68.1	91.0
比較(本年-昨年)	+2.6	▲4.6	▲14.0	▲13.3
検査進捗率*	4.8	1.5	0.04	38.8
昨年3月末1等比率	79.0	57.5	57.9	87.9

* 検査進捗率は、昨年の総検査数量からの推計 (本年の検査数量/昨年の総検査数量)

・ 2等以下格付の主な理由は「白未熟粒」

(参考) 1等米比率の推移(全国と本県との比較: H9産~H25産)



3. 白未熟粒の発生原因

【原因】

・ 米粒は光合成により生成されたデンプンが蓄積し太っていくが、その蓄積が阻害されると、米粒内に隙間が生じ白濁する。

【例年】

・ 穂が実る時期の前半(8月上中旬頃)の高温で、デンプンの蓄積が阻害されて白濁する。(写真1)
・ 「みずかがみ」は高温に強いのでほとんど発生しない

【本年】

・ 穂が実る時期の日照不足で光合成が進まず、デンプンの生成量が不足した。
・ このためデンプンの量が不足し、「みずかがみ」にも発生。(写真2)
・ また、米粒が太りにくくなり、くず米も多くなった。



白未熟粒(○)



写真1



写真2



くず米